

# 埼玉医科大学 総合医療センターニュース

SAITAMA MEDICAL CENTER NEWS

## 基本理念

安全で質の高い医療を提供し、  
地域から信頼される医療機関を目指します。

NO. **73**

2025  
December



## CONTENTS

### ご紹介

- 腎・高血圧内科…………… 教授 前嶋 明人 …… P-2  
呼吸器内科…………… 教授 植松 和嗣 …… P-4  
メンタルクリニック…………… 教授 吉益 晴夫 …… P-6

### トピックス

- 薬剤師による入院支援のご紹介…………… 薬剤部 …… P-8  
自動販売機設置場所のご案内…………… ウエルフェア …… P-9

### 連載

- RT JOURNAL (腎がん凍結療法について)  
…………… 中央放射線部 …… P-10

### お知らせ

- マイナンバーカードによる保険証情報確認のお願い  
…………… 医務課 …… P-11  
マスク着用についてのお知らせ…………… 医務課 …… P-11  
外来受診について／面会者へのお願い…………… P-12



## 腎・高血圧内科

教授 前嶋 明人

## 健康寿命を延ばす！慢性腎臓病（CKD）の早期発見と治療戦略

私たち腎・高血圧内科では、慢性腎臓病（CKD）をはじめとする幅広い腎疾患の診療を行っています。腎臓の病気は、初期には自覚症状がほとんどないまま進行することが多く、気づいたときには治療のタイミングを逃してしまうことも少なくありません。

	G1	G2	G3a	G3b	G4	G5
eGFR値*	90以上	89～60	59～45	44～30	29～15	15未満
腎臓のはたらきの程度	正常	軽度低下	軽度～中等度低下	中等度～高度低下	高度低下	末期腎不全
治療の目安		生活改善	食事療法・薬物療法		透析・移植について考える	透析・移植の準備

## 定期的な検尿が早期発見の鍵

慢性腎臓病は、成人の約5人に1人、すなわち約2,000万人が罹患しているといわれる国民病です。

## 慢性腎臓病は新たな国民病



健康な方では通常、尿に蛋白や血液は含まれませんが、CKDの初期には検尿でこれらの異常が現れます。尿検査は痛みがなく、簡便かつ有用な検査であり、早期発見のためには定期的な実施が重要です。

## 幅広い腎疾患に対応しています

当科では、以下のようなさまざまな病態に対応しています。

- ・検尿異常（蛋白尿・血尿など）
- ・電解質異常（ナトリウム・カリウムなどの異常）
- ・高血圧
- ・保存期腎不全（透析が必要になる前の段階）
- ・透析導入および維持管理

特定の分野に偏らず、腎臓全般を総合的に診療できることが当科の特徴です。

## 診断の流れと検査

初診では、まず詳しい問診を行い、生活習慣や既往歴などから病態を丁寧に把握します。そのうえで、身体診察、血液・尿検査による免疫学的評価、腹部超音波検査やCTによる器質的異常の確認などを行い、原因を特定します。腎炎などの疑いがある場合には、腎生検を実施します。入院期間はおおよそ1週間で、年間約150件前後の腎生検を行っています。腎組織は光学顕微鏡・蛍光免疫染色・電子顕微鏡で詳しく解析し、迅速かつ正確な診断と治療方針の決定を行っています。病理検査の多くを院内で完結できるため、短期間で結果をお伝えすることが可能です。

当科は教授2名、准教授1名、講師1名、助教12名の診療体制で腎疾患診療に対応しています。かかりつけ医の先生との密接な連携を通じて、患者さんが最適な時期に適切な医療を受けられる体制を整えています。ご不安なことやご質問がありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。





## 呼吸器内科

教授 植松 和嗣

日頃の外来診療では、さまざまな疾患を診療させていただいているため、診療時間が長時間に及ぶこともあります。皆さまのご理解ご協力に感謝いたします。今回は、当科の診療に関してご紹介します。

### どんな病気を診療しているか？

長引く咳、痰や呼吸困難などにお困りの方や、健康診断の胸部レントゲン写真で異常を指摘された方などが受診されます。これらの症状などで最初にお近くの医療機関を受診し、より専門的な診療が必要との判断でご紹介いただいています。対象疾患としては、肺がん、肺炎、気管支ぜん息、気管支拡張症、肺気腫などによる慢性閉塞性肺疾患（COPD）、特発性間質性肺炎、胸膜炎（胸水貯留）など多岐にわたります。

### どのように診療していくか？

患者さんの症状などの問診の後に、聴診器などを用いた診察をし、必要に応じて、胸部レントゲン写真撮影、血液検査、肺機能検査などを行います。症状によっては、診察前に胸部レントゲン写真を撮影します。胸部レントゲン写真で異常陰影が認められた時は、必要なら胸部CT検査を受けていただき、もう少し詳しく胸部の異常所見を検討していきます（肺機能検査やCT検査は後日の予約検査になります）。

痰の多い方で、気管支の炎症や肺炎などが疑われる方には喀痰の検査を行い、病気の原因となるような細菌などが存在するかを調べます。また、ヘビー・スモーカーの方の痰に血が混じる時や、胸部レントゲン写真で肺がんを疑わせる腫瘤影がある場合などは、喀痰中の細胞を顕微鏡で調べてもらうこともあります。気管支ぜん息が疑われる場合も喀痰の細胞の中に好酸球という細胞がある程度出現しているかを調べることもあります。

胸部レントゲン写真で一般的な細菌性肺炎とは異なる特殊な肺炎像や、肺の腫瘤性陰影が存在す

る時には、診断をつけるために気管支鏡という内視鏡検査を行うこともあります。気管支鏡は直径4～6ミリくらいの柔らかい管で、気管やある程度の太さの気管支の観察ができます。鉗子とよばれる細いワイヤーを気管支鏡の処置チャンネルへ通して、病変の組織や細胞を採取します。気管支鏡で観察できる病変は気管支鏡で観察しながら、気管支鏡で観察できない末梢の領域に関してはレントゲン透視や超音波装置で病変を確認しながら病変の組織や細胞を採取します（写真は気管支鏡室を撮影しています。中央にレントゲン透視台があり、その左奥に気管支鏡の検査機器が置かれています）。



胸に水が貯まっているようであれば、外来で注射器を用いて採取し、これを用いてさまざまな検査を行うこともあります。

### 治療をどうするか？

最初の受診で診断がある程度絞られるようなら、最初からお薬を処方させていただきます。基本的には診断をつけてから治療を行うのが望ましいのですが、診断がつかなくても症状が激しいようであればそれに対して何らかの処方を行うこともあります。

それぞれの疾患にあわせて治療を行っていきませんが、肺炎、気管支ぜん息、COPD、肺がんなど治療のためのガイドラインが発行されている疾患

は、それに沿って治療を行っていきます。

呼吸器内科の病床数は限りがあるので、外来で治療ができるようであれば、できる限り外来で治療をさせていただいています。

肺がんの抗がん剤治療を初めて受けられる患者さん、呼吸状態の悪い肺炎の患者さん、気胸の患者さん、胸水が大量に貯まっている患者さんなどは、入院して治療をしていただくことになります。

当科は、川越周辺地域の病院と協力関係を構築していくように努めており、診断がついて治療法も決まり、長期に治療を続けていく必要があるときには、患者さんのお家に近い病院やクリニックへ診療の継続をお願いするようにしています。

おおまかに呼吸器内科の診療に関してご紹介させていただきました。呼吸器疾患は多岐にわたるため、個々の症状、病気によって診療の流れがかなり違うこともあります。

#### 今後の取り組みは？

大学病院では治療法が確立されていない難治性疾患を扱うことが多くなります。診断がついてもご本人の症状を改善させてあげられないこともあります。難治性病態に対して、今後、基礎研究や臨床研究なども踏まえたうえでの新たな治療法の確立を目指して行きたいと考えています。

当科は、日常の臨床および研究において研鑽をつむことで個々の医師の成長を継続させていきたいと考えています。





## メンタルクリニック

教授 吉益 晴夫



### はじめに

当院のメンタルクリニックは、外来診療とリエゾン診療を二本柱にして診療を行っています。精神科医師が診療を担当します。精神科医が登場するという点では、他の病院の精神科、神経精神科などと同じです。当科では、外来診療に加えて、「リエゾン」という業務に力を入れていることが最も大きな特徴です。

### リエゾンとは

リエゾンとは、デジタル大辞林によると、「フランス語などで、通常は発音されない語尾の子音が次に続く語の語頭母音と結合して発音される現象。連音。」のことです。例えば、mes amis（私の友人）は、一つ一つ発音すれば、メ・アミとなるところを、リエゾンが起きてメザミと発音されます。リエゾンの二つ目の意味として、「組織間の、連絡、連携。」があります。

精神医学の中でも、リエゾン精神医学という領域があります。高度に専門化された現在の医学であるからこそ、「つなげる」という役割が、一つの専門領域としてクローズアップされています。精神科リエゾンチームでは、内科や外科などに入院する患者さんの精神面の診療を行うとともに、診療科と診療科の間を、医師と看護師など病院内の多くの職種の間を、そして、患者さん・ご家族と病院や地域との間を「つなげる」ことを重要視

しています。

当科では、高度救命救急センターに入院した方の継続的精神的支援、総合周産期母子医療センターと連携して出産前後の対応、緩和ケアチームの一員として苦痛の緩和、小児科にかかる患者さんの家族のサポート、移植医療のサポート、糖尿病・腎疾患・炎症性腸疾患など慢性疾患を抱える方への支援、認知症サポートチームとしての活動等々、院内の全ての診療科と連携して幅広く診療をおこなっています。また、臨床倫理や虐待防止の領域で、院内の議論に積極的に関与しています。

### どのように診察するのですか

リエゾン精神医学では、患者さんの病名としては、適応障害とせん妄が多くを占めると言われています。当院も例外ではありません。また、適応障害は、診断がつくというよりは、今まで健康だった人が病気や怪我をしたときの、正常な反応と区別がつかないことも少なくありません。多くの精神疾患には、診断の決め手となり、実際の診療場で使用できる、血液検査や画像検査がありません。従って、いろいろな角度から、詳しく話をうかがい、症状やその時間経過を診断基準に当てはめることにより、ある病気であることが確からしいというように判断します。しかし、健康な反応と病的な反応の境界は時として曖昧で、白黒つけることが必ずしも有益とも限りません。診断を脇において、患者さんが辛くて、誰かが困っているのであれば、何とか役に立とうと考えることも時にはあります。一方で、正確な診断をつけることで治療法が定まってくるので、診断にこだわる精神疾患もあります。

### メンタルクリニックの受診の仕方

入院中の方がメンタルクリニックの受診を希望するときは、担当医か担当看護師にお知らせください。普段から別の病院で精神科の診察を受けている場合には、その医師からの診療情報提供書(以

前は紹介状といていたものとほぼ同じです）が必要になります。黙って座れば全てわかるということにはなりません。過去の治療経過、処方薬、診断名など、過去にかかった病院からの情報が、適切な治療を行うために必要になります。

当科の外来診察を受ける際には、予約が必要です。祝日を除く月曜日から土曜日に、メンタルクリニック外来 049 - 228 - 3605（直通）までご連絡ください。詳細はウェブサイトの「メンタルクリニック」のページで、「予約等の受付方法」をご覧ください。

初回の診察では、いつ頃からどのような症状があるのかに加えて、学歴や職歴、家族構成、身体疾患などもお尋ねします。このようなことが、診断のヒントになることが多いのです。もし、イメージしている治療法などがあれば、遠慮なくお伝えください。「薬はできれば飲みたくない」、「薬の力を積極的に借りて早く治したい」、「認知行動療法を受けてみたい」など、可能なご希望は取り入れます。

また、当院は大学病院として埼玉医科大学などの学生教育を担っているほか、臨床研修医が研修を行っています。最終的な診断や治療は精神科を専門とする医師が行いますので、学生や臨床研修医が診療の一端を担うことについて、御理解をお願いいたします。

### 初診のあとの治療はどうなりますか

外来を受診した場合のことをお話しします。治療が必要な場合には、薬物療法と精神療法を組み合わせで行います。薬は通常は少量から始めて、副作用がないことを確認しながら徐々に増量します。これは精神科で使う薬の一般的な使い方です。薬が増えても驚かないでください。一方、効果の出現はゆっくりで、通常は数週間かかります。服薬してすぐに改善しなくてもあきらめないでください。

症状が落ち着いた後の継続治療については、居住地や職場に近いクリニックや診療所への通院をお願いしています。これらのことは医療機関が地域の中で役割分担をしながら発展するために必要なことですので、御協力をお願いいたします。また、治療の途中で病院を変わりたいとき、または、他の病院でセカンドオピニオンを受けたいときにも、遠慮なく担当医にお申し付けください。

### おわりに

メンタルクリニックは、精神科医師、公認心理師、精神看護専門看護師、精神保健福祉士、医務課職員など多くの職種が関与し運営されていることが特徴です。病院の基本理念である、「地域から信頼される医療機関」を目指します。メンタルクリニックについて詳しく知りたい方は、ホームページをご覧ください。（<http://www.saitama-mentalclinic.com>）



## 薬剤師による入院支援のご紹介

薬剤部

当院では、患者さんが安心して入院治療を受けられるよう、薬剤師による入院支援を行っております。これは、入院前に薬剤師が患者さんの使用されている薬剤を確認し、より安全で効果的な入院治療を提供するための取り組みです。

### 入院支援とは？

入院支援とは、患者さんが普段服用されているお薬やアレルギー歴などの情報を、薬剤師が詳しく確認し、入院後の治療に支障がないようにサポートする業務です。医師・看護師など多職種からなる医療チームと連携しながら、安全な薬物療法の実現を目指します。



### 主な業務内容

#### 1. 使用している薬の確認

患者さんが普段服用しているお薬の種類や用法用量を確認し、入院での治療に適した薬剤への切り替えや継続の可否を判断します。また、ご使用中の一般用医薬品、サプリメントの影響も確認させていただきます。特に確認しているサプリメント一覧を表であげていますので参考にしてください。

#### 特に確認しているサプリメント

サプリメント 生薬成分	主たる作用	手術期への影響	休薬推奨期間
にんにく	血小板凝集阻害	出血リスク増加	7日間
イチョウ葉	血小板活性化因子の抑制	出血リスク増加	2日間
薬用ニンジン	血小板凝集阻害	出血リスク増加	7日間
ショウショウ (生姜)	トロンボキサン合成酵素活性阻害	出血リスク増加	データ無し
魚油(オメガ-3脂肪酸誘導体 DHA-EPA含有)	血小板凝集阻害	出血リスク増加	7-10日間

#### 2. お薬手帳・服薬状況の確認

お薬手帳や問診を通じて、過去の服薬歴や副作用歴、アレルギー情報などを把握し、入院治療への影響を評価します。

#### 3. 薬剤管理方法の確認

入院後にご自身で薬剤を管理していただくのか、医療スタッフが管理するのかを決定するため、ご自宅での薬剤管理方法をご確認させていただきます。

#### 4. 服薬指導および情報提供

入院中や退院後の服薬について、患者さんやご家族にわかりやすく説明し、安心して治療が受けられるよう支援します。



### 患者さんへのお願い

- ・入院支援を受けられる際は、現在服用中のお薬（市販薬・漢方薬・サプリメント含む）、お薬手帳、お薬の説明書などをご持参ください。
- ・薬を中止する際は、指示された日付通りをお願いします。決められた日より前に中止した場合、薬剤の効果を受けることができず、思わぬ症状の出現の可能性があります。
- ・1包化されている薬剤を服用中の方で、中止する薬剤がある患者さんは、薬を調剤した薬局へお持ちいただき、薬を抜いてもらってください。その際、手術当日までの薬剤を調整してもらってください。

#### こちらをご持参ください

- ・お薬手帳
- ・薬の説明書（薬局でもらった紙）
- ・アレルギー歴が記載された書類（あれば）
- ・サプリ・市販薬の情報



### 最後に

薬剤師は、入院前から退院後まで、継続した薬物治療のサポートを行っています。安心・安全な医療の提供のために、ぜひご協力ください。



## 自動販売機設置場所のご案内

ウエルフェア

院内における自動販売機の設置場所についてご案内します。設置場所によりペットボトル以外に紙パックやアイスクリームなども一部取り扱いさせて頂いておりますので、是非ご利用頂きますようお願い申し上げます。

### ■自動販売機の設置場所について（本館1階～3階）



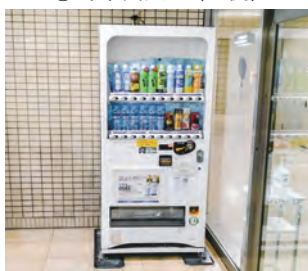
① 外来出入口（左側）



① 外来出入口（左側）



② 外来出入口（右側）



③ 出入口付近



④ 小児科（側面）



⑤ 耳鼻咽喉科（側面）



⑥ 外来化学療法センター（側面）

### ■自動販売機に関する連絡先について

管理会社：株式会社ウエルフェア

住 所：埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 671-2

電話番号：049-276-6850

## RT JOURNAL (腎がん凍結療法について)

中央放射線部



RT JOURNAL

放射線

2025

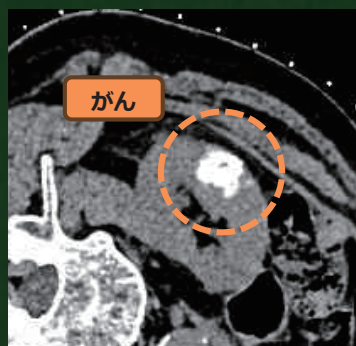
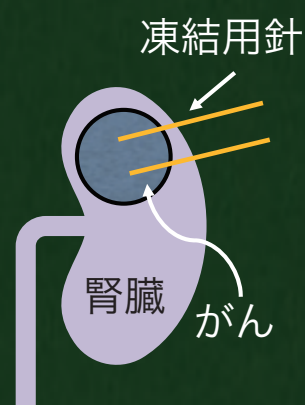
vol.36

## 腎がん凍結療法

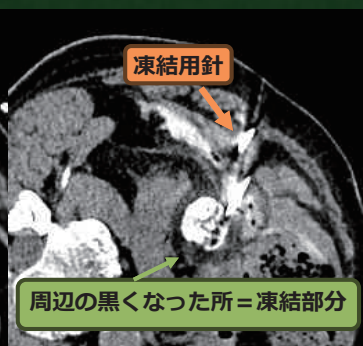
腎がん凍結療法とは、先端が $-190^{\circ}\text{C}$ になる特殊な針を病変に刺して超低温にすることで、がん細胞を凍結・壊死させる治療法のことです。手術に代わる低侵襲な治療法として近年注目されています。

CTを撮影し、画像を確認しながら針を刺すことで、より安全にかつ正確に治療を行うことができます。

腎がんの標準治療は手術による摘出術ですが、手術困難症例や手術を希望されない方に対して適応となります。すべての腎がんに適応できるわけではありませんので、まずは主治医にご相談ください。



治療前



凍結療法中

## 編集後記

腎がんの治療法の1つである凍結療法をご紹介させて頂きました。当院では、医師・看護師・診療放射線技師が一丸となり、患者さんが安心して検査・治療を受けていただける体制を整えております。



## よくあるご質問



Q. 腎がん凍結療法の入院期間はどれくらいの日数ですか。

A. 5日から1週間程度です。

治療は1日で終わりますが、1日安静にさせていただきます。画像検査をして体調に問題なければ食事・歩行・入浴も可能です。合併症が発生した場合は、症状に応じた制限や入院期間の延長といったこともあります。



## マイナンバーカードによる診察前保険証情報事前登録のお願い

医務課

## 受診される患者さんへ

マイナンバーカードによる、**診察前**  
保険証情報事前確認を行っています。

マイナンバーカードをお持ちの方は、  
**診察前**に専用機にて受付を済ませて  
いただきますようお願いいたします。

※マイナンバーカードをお持ちでない方は、  
健康保険証または資格確認書を**診察前**に②再来受付窓口へご提示ください。  
診察前に保険情報の確認をすることで、会計待ち時間の改善を  
見込んでおります。  
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



## マスク着用について院内ルールを緩和しています

医務課

マスクの着用について、職員及び来院される方のマスク着用は、個人の判断となります。  
しかしながら、下記の《**マスク着用が必要となる場合**》に該当する時には、マスクを着用してください。  
感染予防のためご理解・ご協力をよろしくお願いします。

## 《マスクの着用が必要となる場合》

- ・病棟で面会される方
- ・2週間以内に咳、鼻汁、咽頭痛、発熱等の風邪症状があった方
- ・1週間以内に、風邪症状の方と接触があった方



## 外来受診について

### 初めての方

- \* 診療日 月曜～土曜  
(日曜・祝日・年末年始を除く)
- \* 診療受付時間 8:30 ～ 11:00
- \* 診療時間 9:00 ～ 17:00

### 再来の方

- \* 診療日 月曜～土曜  
(日曜・祝日・年末年始を除く)
  - \* 診療受付時間 8:30 ～ 11:00  
(予約の方を除く)
- 予約以外の11時以降の受付はありません。

初めての方、再来の方も午後まで診療を行ってありますが11時以降の受付はできません。(再来で予約のある方を除く) また、診療科や曜日によって受付できない場合もあります。

## 面会者へのお願い

咳・熱などの症状のある方やお子様の面会はお慮ください。

面会については病棟にご確認ください。

## アクセス

### 電車

池袋より東武東上線・東京メトロ有楽町線 30分 川越駅下車  
西武新宿駅より西武新宿線 60分 本川越駅下車  
大宮駅より JR 埼京線 20分 川越駅下車  
大宮駅より JR 高崎線 9分 上尾駅下車  
※下車後、バスまたはタクシーでおいでください。

### バス

川越駅東口より東武バス  
(上尾駅西口・平方・埼玉医大・川越運動公園行き)  
(25分) 埼玉医大総合医療センター下車  
JR 高崎線上尾駅西口より東武バス(川越駅行き)  
(20分) 埼玉医大総合医療センター下車  
市内循環バス「川越シャトル」40系統42系統43系統

### 車

関越自動車道川越インターより8km、約15分  
県道51号線(川越上尾線)沿い

## \* 医務課からのお願い \*

当院では受診の際、月に1回保険資格確認をさせていただいております。マイナンバーカードをカードリーダーに通していただくか、資格確認書を窓口へご提示ください。院外処方箋発行の際に、正しい保険情報を転記するためにも、診察前の保険確認にご協力ください。また、緊急時に当院よりご連絡させていただく際、お届けいただいている連絡先が変更となっていることがあります。連絡先に変更があった場合には、お申し出ください。



小児病棟のクリスマスツリー

## 編集後記

今回の表紙の写真は小児病棟を彩るクリスマスツリーです。入院中の子ども達と一緒に飾り付けを行いました。小児病棟ではクリスマス会や夏祭り、ハロウィンなど、季節に合わせたイベントを開催していますので、今後、紙面でもご紹介できればと考えています。また、寒くなりインフルエンザ等の感染症が増えています。



手洗いを徹底し、バランスのとれた栄養摂取を心掛け、感染症から身を守りましょう。 編集員

## 埼玉医科大学総合医療センターニュース 第73号

発行年月日 令和7年12月末日  
発行 埼玉医科大学総合医療センター  
発行責任者 病院長 別宮 好文  
連絡先 医療センターニュース編集局(医務課内)  
印刷 株式会社 ヨーコー